

令和6年度第2回 八尾市立歴史民俗資料館運営委員会（概要）

開催日時：令和7年3月7日（金）14時～15時30分

開催場所：八尾市立高安コミュニティセンター2階 会議室

【出席者】

参加委員：学識経験者4名 市民代表2名 その他関係者0名：計6名

森田克行委員長・植村和代副委員長・角倉泰子委員

川村美由紀委員・藤井弘章委員・浅見緑委員

（欠席）亀甲知之委員・黒田一充委員

指定管理者：小学館集英社プロダクション共同事業体 岩川氏、船曳氏：計2名

事務局：西澤観光・文化財課長・井上参事、藤井係長、樋口めぐみ：計4名

【議事録】

（1）令和7年度管理運営計画書（案）について

・事務局より令和7年度管理運営計画書（案）の説明を行った。

内容にかかわる部分についての主な意見及び質問は以下のとおり。

・利用者の目標人数（14,000人）について。

実際の利用者数とかけ離れた人数なので、もう少し実数にあった数に設定できないのか。

（指定管理者回答）小学館集英社プロダクション共同事業体が提案書のなかで設定した目標人数であるので、このまま目標として設定したいと考えています。生涯学習センターかがやきでのパネル展示の利用者も資料館の利用者数とするので、今後も目標人数に近づけるよう事業を進めていきます。

・利用者数とSNS利用者数について。SNS利用者数とはなにか。

SNS利用者をカウントするようになったのはいつからか。

（指定管理者回答）SNS利用者数は、Instagram、X、フェイスブック等の利用者数を指します。資料館に興味をもってアクセスした人としてSNSごとに毎月カウントできます。SNS利用者をカウントするようになったのは、令和6年度の4月からです。

・利用者数について、従来とは違うカウントの仕方をするのならば、SNS利用者をどう位置付けるのか。従来の館利用者数とSNS利用者数を別建てにしないと正確に見学者の推移がとれなくなってしまう。

（指定管理者回答）これまで通りの館利用者人数のカウントとSNS利用者数は別建てでカウントしているので、従来の方法での館利用者数の推移はとることはできますが、きちんと整理して集計します。

・展覧会について、特別展1回、企画展4回、観光・文化財課連携展示1回、行われる計画となっている。考古学と民俗学、特に考古学は充実しているように思われるが、新収蔵品展で

ほかの分野の展示が行われるのか。

(指定管理者回答) 新収蔵品展では、考古・民俗・歴史・染織の各分野の資料を展示する予定です。7年度は、考古と民俗の展示に重点を置いた形となっていますが、新収蔵品展で歴史・染織資料を展示し、各分野の資料を展示します。

・講演会・展示とも考古学に比重が置かれているが、資料館の考古学担当の学芸員は一人のみ。観光・文化財課からの協力はあるのか。

(指定管理者回答) 連携展示は、観光・文化財課がメインで行う展示で、特別展も観光・文化財課の協力を得ながら進めていく予定です。

・歴史担当の学芸員が未定となっているのはなぜか。歴史系の講座が少ないのはそれが理由なのか。

(指定管理者回答) 現在の歴史担当の学芸員は3月末までの在籍で、4月以降は新しい学芸員が来ることになっています。新しい学芸員の担当について未定ですので、歴史系の事業は少なくなっています。

・ボランティアとの協働について、本大学の学生がなにか携わることができればと考えている。ボランティアスタッフの会の人たちは専門的な人たちであるのか。学生が参加することも可能なのか。

(指定管理者回答) 「ボランティア養成講座」は現在のところ行っておらず、以前からのベテランのボランティアに活動を支えてもらっています。今後、養成講座を行いたいと思っているが、いつからになるかは未定です。

・学生にも資料館でのボランティアに携わる機会があればと思うので、養成講座を行う際は教えてほしい。

(事務局回答) 観光・文化財課で現在、古民家の調査をするボランティアを養成している。学生さんも参加しているので検討してほしい。

・オリジナルキャラクターの制作について。具体的にどのようなキャラクターにするか考えているのか。若い方にキャラクターを考えてもらおうと若い感性でわれわれでは思いもよらないアイデアを提供してもらえないのではないか。

(指定管理者回答) 具体的にはまだ進めておらず、特別展に合わせて考えていきたいと考えています。

・ぜひ、若い人のアイデアを取り入れて、歴民を身近なものと考えてもらえるようにしてほしい。

・河内木綿について 前任の専門学芸員がいなくなったあとの河内木綿の担当者はいるのか。
→現在は河内木綿の専門の研究者は在席していません。

・河内木綿は、八尾にとってとても大きな存在である。八尾で河内木綿ができて、河内木綿の生産が非常に盛んであったということは、八尾のまちの歴史に対して重要なことである。八尾の河内木綿についての考えや動向が知りたくて運営委員をしていたが、専門学芸員がいなくなって今後どうなっていくのか。八尾の中で一つの大きなシンボルである河内木綿をずっと持ち続けていただきたい。八尾の河内木綿の存在意義をもう一度しっかりと認識していただきたい。

(事務局回答) 前任の専門学芸員は現在観光・文化財課の職員として、河内木綿に関係する

古民家の調査を行っています。課としても、この古民家の調査を通じて河内木綿の調査研究を続けていくので、今後に期待をしてください。

- ・企画展で取り上げている由義寺の整備事業の進捗について、報告してほしい。

(事務局回答) 今年度は自主設計、来年度から整備事業を開始し、市政 80 周年の令和 10 年度に完成予定で進めている。進捗状況はまた次回に改めて報告できればと考えている。

- ・実体験から考えを言うと、史跡整備を進めていく中で、いかに市民を取り込んだ事業ができるかが重要である。史跡整備というと、役所と史跡整備委員、文化庁で話を進めることがほとんどで市民が置き去りになることが多い。現場で現地説明会を行うように、史跡整備でもその過程を市民に見てもらおう機会やとりくみなどが必要だと思う。市民にとって史跡公園がより身近に感じられる。できましたから来てください、ではなく、市民参加を踏まえたうえでの整備工事が行えたらよいのではないか。そのさまざまな過程を資料館で展示や講座で紹介するといったトータルな取り組みができれば由義寺の史跡整備についても立体的な見方になるのではないかと思う。

- ・地域と観光・文化財課でイベントを行ったことがあった。由義寺跡は地元にとって大事な場所だという意識が強いので今後も地域を巻き込んだイベント等を行ってほしい。

意見聴取の後、出席委員全員により、令和 7 年度管理運営計画（案）は了承された。

観光・文化財課長の挨拶を経て委員会を終了した。